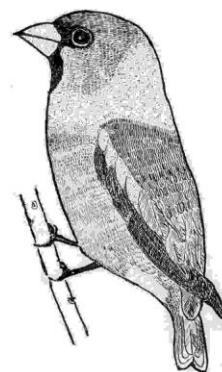


万博公園探鳥会 2008年度の記録

(08年4月～09年3月)

2009年3月31日

- ①万博探鳥会 08年度実績
- ②08年度探鳥会報告
- ③01年～08年観察記録からの特記
- ④01年～08年度観察回数



シメ (嘴ぶっとい)

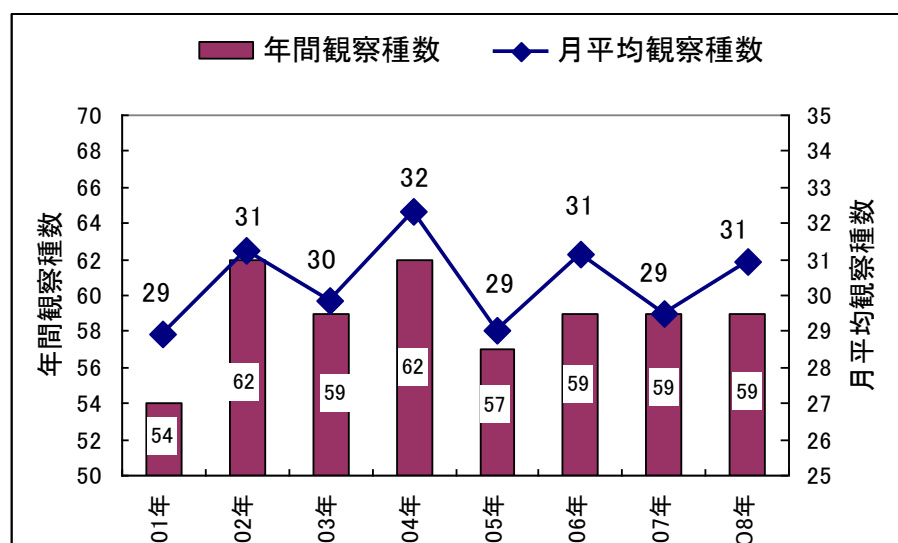
集約 吹田野鳥の会／日本野鳥の会大阪支部
協力 (独)日本万国博覧会記念機構

①万博探鳥会 08 年度実績

- ・ 主催 日本野鳥の会大阪支部
- ・ 定例開催日 毎月第2土曜日
9 : 30 自然文化園中央口集合
15 : 00 頃日本庭園東側で終了解散
- ・ 年間探鳥会回数 13 回
基本的には月1回。
11月のみ定例会のほかにバードウォッチング・ウィーク探鳥会(11/3)実施により2回開催。
- ・ 探鳥会で観察した鳥 59種(07年59種)
毎回の観察種 19~39種
年平均 30.9種/回(06年29.5種)
- ・ 探鳥会参加者数 598人(07年763人)
毎回の参加者 14人~85人
年平均 46人/回(07年59人)
(探鳥会に雨の日が多く、参加者は激減した)

01~08年観察種数

08年の年間観察種数は59種と、07年と同じであった。探鳥会1回当りの観察種数は07年29種から08年31種と、2種少なく最低レベルにとどまった。



②08年4月～09年3月度探鳥会報告

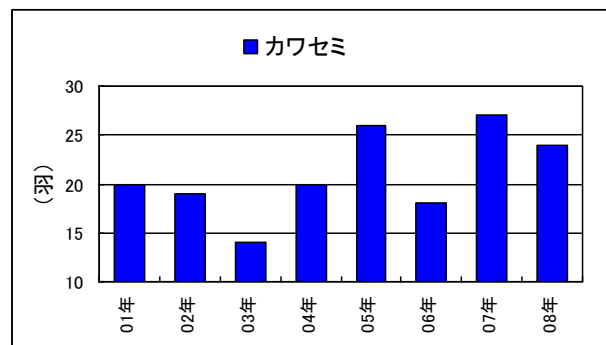
月/日	観察種数	参加者数	天候	コメント
4/12 5/10 6/14	39 22 26	85 14 67	晴 雨 晴	<p>(4月)春の渡りの季節、スタート地点でサシバが輪を描き、午後スタート時にミサゴの舞い、更にアマツバメの飛翔、オオルリ・ノビタキの成鳥も、更にニューナイスズメの群を見ることができた。冬鳥のシメ、アトリ、ルリビタキ、留鳥も出て、この季節としては多い39種の鳥を確認した。</p> <p>(5月)万博探鳥会300回記念、しかもバードウィーク探鳥会でしたが、雨の中となりました。冬鳥は渡去し、渡り鳥はキビタキ(声)のみと、種数・個体数とも少ないままでした。</p> <p>(6月)ヤマザクラにヒヨドリ・ムクドリ・ハシボソガラス、ヒラギモクセイにメジロ・ヒヨドリなど、木の実に鳥が集まっていた。小鳥類はそれほど多くなかったが、カワセミは全員ばっちり観察できました。</p>
7/12 8/9 9/13	23 19 29	33 29 35	晴 晴 雨後晴	<p>(7月)暑い1日、汗を流しての清掃探鳥会、33名もの参加があり感謝感謝。鳥もウグイス・イカルのさえずり、そして万博生まれの小鳥の若鳥など、23種も観察した。</p> <p>(8月)エノキの実を食べるカラス、青いエゴノキの実を食べるヤマガラ、大きなスズメガの幼虫を食べきれずに落としてしまったシジュウカラ、セグロセキレイ・ハクセキレイのどちらか見間違える幼鳥、そして、木の葉で見え隠れのカワセミなどを観察したが、種数・個体数とも少なかった。</p> <p>(9月)朝から雨、しかしスタート時にほとんど止み、午後には日差しが戻り残暑厳しい日となった。渡り鳥はコサメビタキ12羽、エゾビタキ3羽、オオルリ1羽、そしてノビタキ1羽、中でもコサメビタキは園内各所で観察できたので、今日の探鳥会は「雨のちコサメ」で表現する人があった。</p>
10/11 11/3 11/8 12/13	35 29 34 38	56 19 19 79	曇後晴 曇 雨 晴	<p>(10月)早朝の雨はスタート時に上がり絶好の探鳥日和、秋の渡り鳥は先月に続いてコサメビタキ・エゾビタキ・ノビタキなど、留鳥のヤマガラ・シジュウカラ・カワセミもゆっくり見ることができた。万博の冬の名物アトリ、更にカケスが飛ぶなど、この時期としては多い36種が観察できた。</p> <p>(11月BWW)冬鳥はシメ・ジョウビタキ・シロハラを確認し、アキニレにアトリが30羽の群でしたが、ツグミはまだでした。園内一円に吹奏楽が鳴り響く悪条件からか鳥たちがあまり出なかった。</p> <p>(11月定例)BWW探鳥会から5日目、しかも午前の雨確率80%の中、参加者が19名あった。万博としては2年ぶりのホオジロ、水田の冬鳥イカルチドリ、そして100羽を超えるアトリの群舞と、シメの群など、木々の紅葉をめでながら、小鳥たちをたっぶり楽しむことができた。</p> <p>(12月)快晴の探鳥日和、集合地点でアオバトが飛び、アトリ・シメが何回も、オオタカ・ハイタカ・ハヤブサとタカ3種、ジョウビタキやカワセミもばっちりでした。そして万博としては珍しくカモ4種確認できた上、更にオオタカがオシドリを威嚇する所を観察した幸運の方もいました。</p>
1/10 2/14 3/14	36 37 35	66 71 25	曇 曇後晴 雨後晴	<p>(1月)アトリ・カワラヒワがそれぞれ100羽以上の群でアキニレの実を求めて飛び回り、シメもシナサワグルミやトウカエデなどの木の根元で数10羽と、良く出てくれました。そしてヨシガモ、探鳥会資料に今月の鳥として紹介したのに誘われてか、鳥あわせ場所の「はず池」に出てくれました。</p> <p>(2月)雨上がりで湿っていて人気(ひとけ)が少ない芝生広場は野鳥天国、ツグミ・シメ・ハクセキレイ・アトリ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリなどがあちこちにいた。昭和60年2月にスタートした万博探鳥会は満24歳、カモの少ない万博では珍しいアメリカヒドリが探鳥会初記録となりました。</p> <p>(3月)スタートから冷たい雨の中、ツグミ・シメ・カワラヒワなど、雨の芝生上にゆっくりえさ探しをしていた。カワセミが2ペア+1羽、春の渡りと思われるノスリが3回、ミサゴが2回上空を飛ぶなど、鳥たちを楽しむことができた。</p>

③01～08年度 観察記録からの特記

1. 万博公園の留鳥

①**毎月観察できた鳥** 01年からの8年間、103回の探鳥会開催し、観察した鳥は99種である。このうち、103回すべての探鳥会で確認した鳥は、**カイツブリ、カルガモ、キジバト、セグロセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス**の10種である。これらの鳥はすべて留鳥、万博公園内で巣作り・繁殖・子育てをしている。

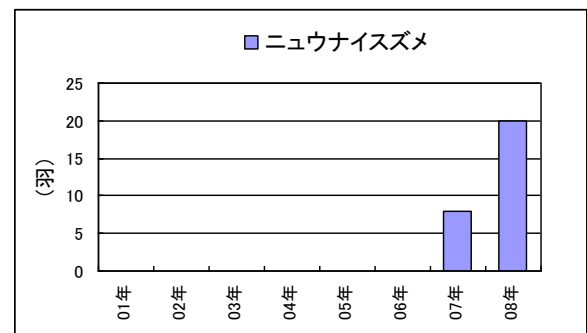
②**カワセミ** カワセミは身近な鳥の中で最も人気の高い鳥、カワセミを見たいという目的で探鳥会に参加される方が多い。カワセミの年間観察数は20羽前後、探鳥会1回当たり2羽程度であるが、09年3月は2ペア+1羽の5羽確認した。



2. 春の渡り鳥

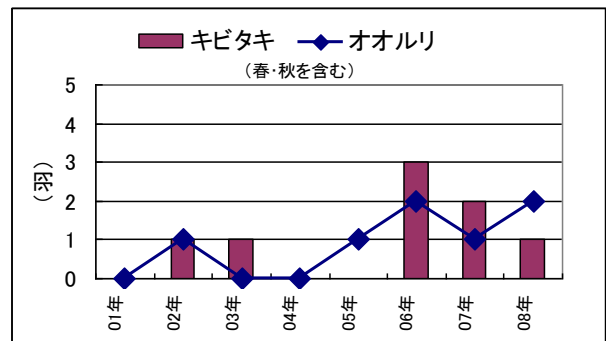
毎年実施している調査結果は別途報告しているので、ここでは定例探鳥会での観察鳥を示す。定例会が第2土曜日で渡りのピーク4月下旬から外れているため、あまり観察できていない。

①**ニューナイスズメ** 春の渡り鳥調査では毎年多数確認しているが、探鳥会では07年が初認、08年も観察できた。ソメイヨシノの花芽やクヌギの新芽を餌場としているので、4月探鳥会の定番種になってほしいと思っている。



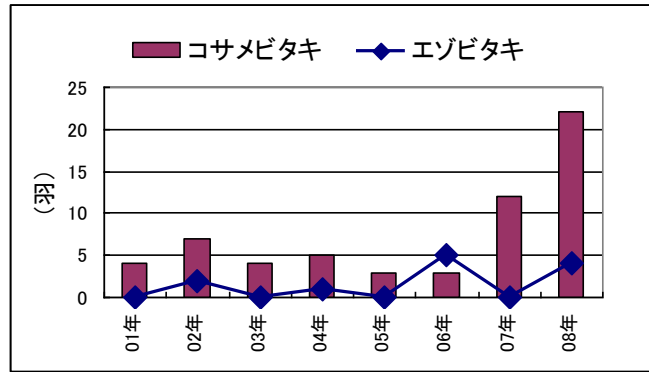
②**オオルリ・キビタキ** 春の渡り鳥

で最も数が多くポピュラーであるが、万博探鳥会での観察は稀で、08年は4月オオルリ、5月キビタキと、4月～5月に単発的に観察している。



3. 秋の渡り鳥

①**コサメビタキ** 秋の渡り鳥で最も多く、9・10月の2ヶ月を中心に観察できる。08年は特に数が多く9月12羽、10月9羽、11月1羽確認した。コサメビタキの繁殖地は大阪府内を含め日本であるが、越冬地の東南アジアに出発するまでの日々を、繁殖地を離れて生活する習性があるためと思われる。

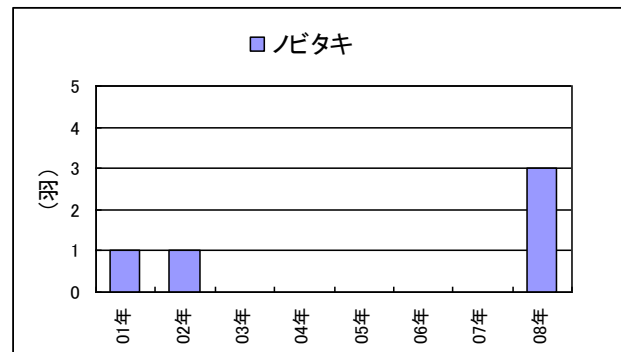


尚、コサメビタキは春も通過している筈であるが、この8年間トータル60羽確認したうち、春の観察は1割程度である。

また、仲間のエゾビタキも割合よく観察される種で、08年9月3羽、10月1羽確認している。

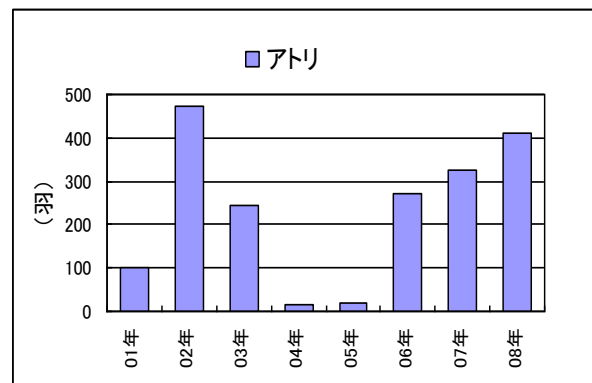
②**オオルリ・キビタキ** 秋の渡り時にも観察できる。春と違って声を出さないことから観察は単発的で、最近では08年9月オオルリ、07年10月キビタキを確認している。

③**ノビタキ** コサメビタキよりは数は少ないが、秋の渡りで観察できる種、08年は9月、10月各1羽観察している。草はらで最も高い所がお気に入り、万博公園では砂の流れ周辺のガマの穂先などがポイントとなる。

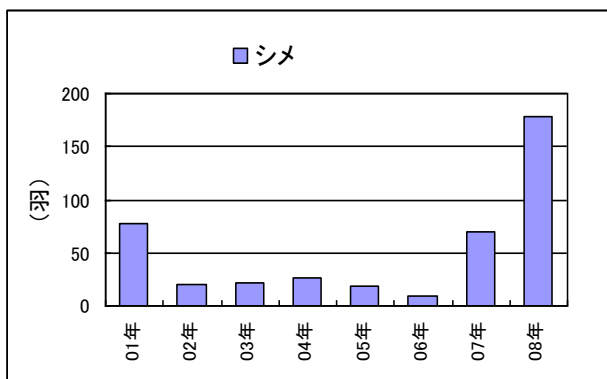


4. 冬鳥

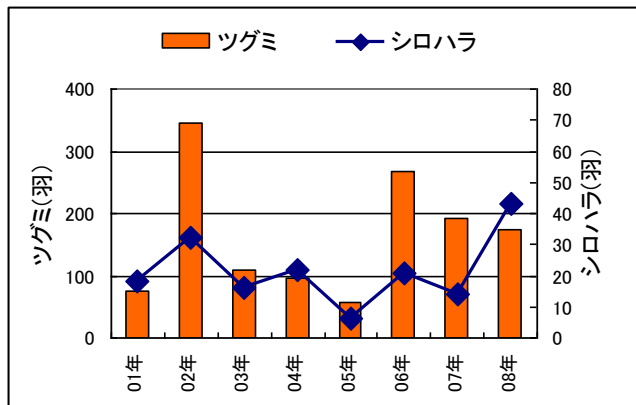
①**アトリ** 冬鳥として一番観察したい鳥である。万博公園ではアキニレの実が餌となり、渡ってきたばかりの10月から、実が無くなる3月の間、アキニレの樹上で、落ちた実を拾うために地上で、群れで観察できる。アキニレが無くなる4月にはハルニレに集まるなど、10月～4月の半年以上の間、万博で越冬している。



②シメ 毎冬観察できるものの年によって観察数に変化の多い種である。08年度は11月32羽、09年2月37羽、3月39羽と、過去最大数が観察できた。今年シメが多い理由は何故かわからない。



③ツグミ・シロハラ 毎冬観察できるポピュラーな冬鳥はツグミとシロハラである。08年ツグミは11月探鳥会で観察できず、ツグミの少ない年と思っていたが12月に姿を見せはじめ、2月には103羽と通常より多いレベルに回復した。



一方シロハラは、11月から観察されており、今年に入っからは過去最高、1～3月探鳥会で10±羽確認されている。

5. 液果の費消状況

冬鳥のツグミ・シロハラ、そして留鳥のヒヨドリなど、液果を好む鳥の多い冬は、液果の費消時期が早いことは経験的にわかっている。

日本庭園入口手前の西側にあるクロガネモチの実での判定は

- ・1月探鳥会時に実が無くなっておれば、その年鳥は非常に多い ◎
- ・2月 〃 に実が無くなっておれば、鳥の数はまずまず ○
- ・3月 〃 に実が無くなっておれば、鳥はやや少ない △
- ・3月 〃 に実が残っておれば、鳥は絶望的 ×

今年は、1月時点でクロガネモチはかなり食べられており、2月には全く無くなっていた。上記判定から言えば◎～○と、液果を好む冬鳥が多かったことを示している。

1995年冬、1997年冬は全国的にツグミが激減した年であった。この年クロガネモチに実は、春になっても食べられずに残り、9月頃、その年の実が色づき始める頃、ようやく前年の実が無くなったことがある。

④01～08年度 観察回数①

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	トータル
1	カイツブリ	カイツブリ	13	13	13	12	13	13	13	13	103
2	ウ	カワウ	11	12	13	12	13	11	13	11	96
3	サギ	ゴイサギ	2	2	0	2	0	0	2	0	8
4		ササゴイ	0	2	0	0	0	0	0	0	2
5		ダイサギ	1	5	2	1	0	3	1	3	16
6		チュウサギ	0	0	1	1	0	0	0	0	2
7		コサギ	6	7	9	8	7	11	12	10	70
8		アオサギ	12	12	10	12	11	12	11	13	93
9	カモ	オンドリ	0	0	2	0	2	10	2	1	17
10		マガモ	10	10	13	12	13	13	11	11	93
11		カルガモ	13	13	13	12	13	13	13	13	103
12		コガモ	0	0	0	0	1	1	0	2	4
13		ヨシガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14		オカヨシガモ	3	2	3	4	0	0	1	0	13
15		ヒドリガモ	0	1	1	4	5	5	4	4	24
16		アメリカヒドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	1
17		オナガガモ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
18		ハシビロガモ	0	0	0	0	0	1	0	0	1
19	タカ	ミサゴ	1	0	0	1	1	1	0	3	7
20		ハチクマ	0	0	0	0	0	0	1	0	1
21		トビ	1	2	0	2	1	2	1	4	13
22		オオタカ	4	4	7	7	6	4	8	6	46
23		ハイタカ	4	6	3	3	8	3	4	4	35
24		ノスリ	0	1	0	0	1	0	2	2	6
25		サシバ	0	0	0	0	0	1	0	1	2
26	ハヤブサ	ハヤブサ	6	0	0	0	2	0	0	1	9
27	クイナ	バン	10	8	10	7	10	2	6	3	56
28	チドリ	コチドリ	1	0	1	1	0	0	2	0	5
29		イカルチドリ	0	1	0	1	0	0	0	1	3
30		ケリ	0	2	0	0	0	0	0	0	2
31	シギ	クサシギ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
32		イソシギ	1	0	0	0	1	0	1	0	3
33		ヤマシギ	1	0	0	0	1	0	0	0	2
34		タシギ	0	0	0	0	1	0	0	0	1
35	カモメ	ユリカモメ	0	2	1	1	0	2	1	1	8
36		セグロカモメ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
37	ハト	キジバト	13	13	13	12	13	13	13	13	103
38		アオバト	2	5	5	4	0	0	1	3	20
39	カッコウ	ツツドリSP	0	0	0	1	0	1	1	0	3
40	フクロウ	フクロウ	0	0	1	0	1	0	0	0	2
41	アマツバメ	アマツバメ	0	0	0	1	1	0	0	1	3
42	カワセミ	カワセミ	11	11	10	11	12	11	13	11	90
43	キツツキ	アカゲラ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
44		コゲラ	13	12	13	11	13	13	13	13	101
45	ツバメ	ショウドウツバメ	1	0	0	0	0	0	0	0	1
46		ツバメ	7	7	6	6	7	6	7	7	53
47		コシアカツバメ	1	1	1	0	1	0	0	0	4
48		イワツバメ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
49	セキレイ	キセキレイ	5	8	8	7	9	8	8	8	61
50		ハクセキレイ	11	12	11	11	12	12	12	13	94

④01～08年度 観察回数②

	科名	種名	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	トータル	
51	セキレイ (続き)	セグロセキレイ	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
52		ビンズイ	3	5	2	3	1	2	0	0	16	
53		タヒバリ	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
54	ヒヨドリ	ヒヨドリ	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
55	モズ	モズ	8	8	9	6	7	7	6	8	59	
56	レンジャク	キレンジャク	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
57		ヒレンジャク	0	0	1	0	0	2	0	0	3	
58	ツグミ	コマドリ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
59		ルリビタキ	3	4	3	5	2	4	3	5	29	
60		ジョウビタキ	6	6	6	6	6	6	6	6	48	
61		ノビタキ	1	1	0	0	0	0	0	0	3	5
62		トラツグミ	0	1	0	0	0	0	1	0	2	
63		アカハラ	1	0	0	1	1	2	1	0	6	
64		シロハラ	5	6	5	7	3	7	5	7	45	
65		ノドグロツグミ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
66		ツグミ	6	6	7	7	5	7	6	5	49	
67	ウグイス	ウグイス	6	8	6	8	4	7	6	8	53	
68		オオヨシキリ	0	0	1	0	1	0	0	0	2	
69		メボソムシクイ	0	0	1	2	0	0	2	0	5	
70		センダイムシクイ	1	3	2	0	1	0	1	0	8	
71		キクイタダキ	0	0	1	0	1	0	0	0	2	
72	ヒタキ	キビタキ	0	1	1	1	0	2	2	1	8	
73		オオルリ	0	1	0	0	1	2	1	2	7	
74		サメビタキ	0	1	0	0	0	1	0	0	2	
75		エソビタキ	0	1	0	2	0	1	0	2	6	
76		コサメビタキ	2	4	3	2	2	2	3	3	21	
77	エナガ	エナガ	13	13	13	12	12	12	11	13	99	
78	シジュウカラ	ヒガラ	1	1	0	1	0	6	1	0	10	
79		ヤマガラ	7	10	11	10	12	10	13	13	86	
80		シジュウカラ	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
81	メジロ	メジロ	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
82	ホオジロ	ホオジロ	0	1	0	0	0	1	0	1	3	
83		ミヤマホオジロ	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
84		アオジ	7	7	7	7	6	7	5	5	51	
85		クロジ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
86	アトリ	アトリ	7	7	7	5	3	6	5	8	48	
87		カワラヒワ	13	13	13	11	13	13	12	13	101	
88		マヒワ	0	0	1	0	0	4	1	0	6	
89		ベニマシコ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
90		ウソ	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
91		イカル	12	12	7	11	5	7	4	9	67	
92		シメ	6	5	5	8	7	5	7	7	50	
93	ハタオリドリ	ニューナイスズメ	0	0	0	0	0	0	1	1	2	
94		スズメ	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
95	ムクドリ	コムクドリ	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
96		ムクドリ	13	13	11	11	13	12	12	12	97	
97	カラス	カケス	0	0	0	6	0	5	0	1	12	
98		ハシボソガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
99		ハシブトガラス	13	13	13	12	13	13	13	13	103	
計			376	406	388	388	377	405	383	402	3125	